

## 東日本大震災後の PCB 廃棄物の適正な管理等に関する対策について

### 1. 被災地での PCB 廃棄物への津波の影響に関する現地調査

	
<p>保管されていた倉庫が津波に流された事例。機器は、敷地から数百メートルの地点で発見（微量 PCB トランス）。 周辺土壌に油漏れが確認され、土壌を掘削。</p>	<p>工場が全壊したが、PCB 機器は、ワイヤーでつながれており、使用場所にとどまった。</p>

### 2. 東日本大震災の PCB 廃棄物への影響について（平成 24 年 2 月 29 日調査時点）

東日本大震災による保管していた PCB 廃棄物への影響について関係市が確認しているところですが、津波により流失した等でトランス・コンデンサが保管場所がないことが平成 24 年 2 月 29 日時点までに確認された台数（流失台数）は下表のとおりです。また、この他に機器が破損して、PCB が漏えいした保管場所が宮城県内で 2 件確認されています。

トランス	保管されていた台数	流失台数	左欄のうち高濃度
青森県	569	1	1
岩手県	726	9	0
宮城県	750	30	0
福島県	1,450	1	0
合計	3,495	41	1

コンデンサ	保管されていた台数	流失台数	左欄のうち高濃度
青森県	5,059	0	0
岩手県	4,010	29	10
宮城県	16,758	122	33
福島県	11,825	8	5
合計	37,652	159	48

### 3. 津波被災地における PCB 廃棄物の保管方法に関する調査 事例①～⑤

①		<p>20cm 程度の頑丈な基礎の上に鋼板製の倉庫で保管。 倉庫は、基礎にアンカーボルト固定。 1.5m 程度の津波を受け、倉庫側面が損傷したが、トランスは破損・漏えいなし。</p>
②		<p>鋼製の容器に入れて保管（容器は工場内に直置き）。 高さ 4m の津波により、容器ごと流された（100m 程度）。 容器内に海水が若干入ったが、機器はほとんど損傷せず、漏えいもなし。</p>
③		<p>1 階は全壊したが、2 階に保管されていたコンデンサは浸水せず。 転倒防止のため、トランスとトレイの隙間に発砲スチロールを詰めていた。</p>
④	 <p>PCB 廃棄物保管庫 ←（工場内側から） （工場外側から）→</p> <p>コンデンサが保管されていた工場は津波で全壊。コンデンサは、鋼製の枠にボルトで固定され保管。ほとんど破損せず。 ← コンデンサ保管の様子 アングル枠に固定した様子 →</p>	
⑤		<p>従来から地震・津波に備え、対策を実施。 鋼製の容器に入れ、さらに、スチールバンドで建屋の鉄骨に固定。 1.5m の津波を受けたが、破損・漏えいはなし。</p>